

■大井三郎助 幕末に長崎奉行与力として困難な外交に取組み、維新後は全く別の生き方を選択して人生を全うした。

おおいさぶろうすけ

水野忠成老中1818＝ 江戸牛込御徒屋敷で、御徒組頭津山勝六の三男に生まれる。

日本外史・・・1827＝9歳：

・・・1836＝18歳：

大塩平八郎乱1837＝19歳：

阿部正弘首座1845＝27歳：この頃、徒歩大井家に婿養子として入り、美代と結婚(15歳)?。御徒見習として出仕。

孝明天皇・・・1846＝28歳：御徒として御抱え入りとなる。

・・・1847＝29歳：長男誕生。***長崎奉行組与力へ出役を命ぜられ長崎へ。新地荷蔵・俵物蔵などの立替修復掛、エトロフ島からの異国人の住居普請掛をした後、老中首座阿部正弘の指示で、家族引き連れ江戸へ帰府。**

・・・1848＝30歳：長男夭折。長崎奉行所手附へ出役替。

北斎没・・・1849＝31歳：二回目の長崎勤務。三郎助に改名。ラゴダ号事件の処理。目安掛。天草大江で難破唐船の取締。

国定忠治疎・・・1850＝32歳：帰府に際し、嶋鶏付き添い仰用。老中首座阿部正弘より褒美。

尊徳報徳論・・・1851＝33歳：三回目の長崎勤務。

万次郎帰国・・・1852＝34歳：抜荷密貿易取締。帰府に際し、紅○鳥・啼鳥置時計付き添い御用。

ペリー来航・・・1853＝35歳：四回目の長崎勤務。ロシア軍艦渡来・再渡来で御用取扱掛、使節応接手続。サブロスキーと好意的評価。

開国開港・・・1854＝36歳：オランダへの蒸気軍艦注文取扱掛。英国軍艦渡来で使節対応。漂流日本人の吟味。

安政大地震・・・1855＝37歳：支配勘定格長崎奉行手附になり、五回目の長崎勤務。

松下村塾・・・1856＝38歳：長崎表を出立し、十年におよんだ長崎勤務を終了。

蕃書調所・・・1857＝39歳：***支配勘定へ昇進。引き立ててくれた阿部正弘が死去。井伊直弼登場で激変するなか、**

五ヶ国条約・・・1858＝40歳：この間、2男2女全て夭折していたため、養父の子大井鎌吉と養子縁組。***ロシア使節・イギリス使節・フランス使節御用をつとめ、褒美。箱館産物会所の江戸御用掛。**

安政の大獄・・・1859＝41歳：御備場掛。大筒鑄立・小筒張立御用。

生麦事件・・・1862＝44歳：大坂表へ出張。実子和久誕生。池上本門寺の深徳院御位牌所御廟修復御用。

8月18日政変 1863＝45歳：田安門外三番町へ歩兵屯所を取り建てる普請御用。御目見以上の御勘定に昇進。

禁門の変・・・1864＝46歳：天狗党追討御用で各地へ出張。津田栄七(津田仙の養父)と共同で拝領屋敷譲受け。

薩摩藩士密航 1865＝47歳：日光御神忌御用で日光へ出張。妹かねと奥右筆の大久保鍊三郎との縁組許可。将軍御進発のお供。大坂表より御上洛に二度お供。藝州御旅館見分。

薩長同盟・・・1866＝48歳：大坂より御上洛のお供し、京より江戸へ帰府。

大政奉還・・・1867＝49歳：長崎表へ出張。

明治維新・・・1868＝50歳：***長崎港より外国船に乗組み、長崎奉行河津伊豆守とともに退去、長崎奉行所の終焉となる。永々御目見以上。徳川慶喜の水戸行に供し、道中支払御用。地方役を命ぜられ駿府へ、田中城附村々の陣屋へ引移る。**

初の日刊新聞1870＝52歳：静岡横内門外御蔵内役宅へ引移る。

学問のすすめ1872＝54歳：***家督を鎌吉に譲り隠居。家族一同東京へ移転。如川と改名。麹町区飯田町へ家作を買求め移転。**

・・・1880＝62歳：淘宮術入門。

明治14年政変1881＝63歳：

初の対等条約1888＝70歳：大井鎌吉が死去。

帝国議会始・・・1890＝72歳：

日清戦争始・・・1894＝76歳：妻美代が死去。

日清戦争終・・・1895＝77歳：淘宮術皆伝免許。

八幡製鉄始・・・1897＝79歳：親しい関係にあった津田仙の還暦記念会に出席。

Bushidou・・・1899＝81歳：

教科書疑獄・・・1902＝84歳：東京麹町区飯田町で、没した。

大井昇「幕臣サブロスキー」,